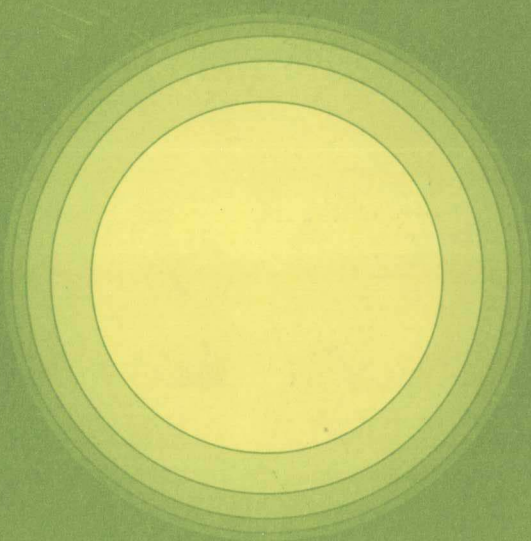
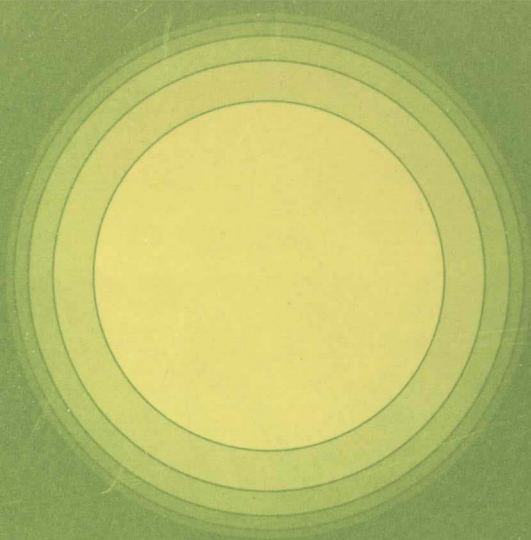


恋人たち 高良留美子



恋人たち

〈現代女性詩人叢書 9〉

こうら る み こ
高良留美子

1932年・東京に生まれる
1958年・詩集『生徒と鳥』（書肆ユリイカ）
1962年・詩集『場所』（思潮社）・第13回H氏賞受賞
1968年・詩論集『物の言葉』（せりか書房）
1970年・詩集『見えない地面の上で』（思潮社）
1971年・『高良留美子詩集』（現代詩文庫㉔・思潮社）
1972年・評論集『文学と無限なもの』（筑摩書房）

住所

川崎市多摩区王禅寺2609

1973年2月25日・初版〈検印省略〉

著者・高良留美子©

発行者・辻信太郎

＊発行所・山梨シルクセンター出版部

＊東京都品川区西五反田7-22-17 TOCビル5F

＊電話・東京(494)5300～1 振替・東京84171

印刷・製本・図書印刷株式会社

定価 1000 円

0392—0609—8522

239027



日文 701627857

恋人たち
高良留美子



目次

恋人たち 8

花瓶 12

アフリカ 14

三宝寺池の日曜日 18

カーヴ
曲線 24

陽光の道 26

指紋 30

秋 34

赤ん坊二篇 36

出航 38

港の五月 40

夢の街道 42

樹葉 44

椅子 46

一本のフィルムが廻る 48

そのとき 50

雨 52

デパートで 54

焼跡で 56

麦と汗 58

影の男 62

眼の対立者 64

浜辺 66

房総風景 68

追跡 70

高良留美子の詩Ⅱ大岡信 72

あとがき 84

恋人たち

恋人たち

なぜそこにいるのだ

なぜ二人でそこに立っているのだ

吹く風と

アカシアの葉の茂みのなかに

葉のなかで 風が鳴り

夜がきみたちのまわりで

その裏切りの色を変えていく

なぜそこにいるのだ

なぜ二人でそこに立っているのだ

吹く風と

椎の木の茂みの下で

葉のなかで 風が鳴り

夜がきみたちのまわりで

その苦悩の輝きを変えていく

おおなぜそこにいるのだ

なぜそこに抱きあって立っているのだ

吹く風と

笹の葉の茂みのなかで

葉のなかで 風が鳴り

夜がきみたちのまわりで

その希望の深さを變えていく

花瓶

蕾の形につくられた赤銅あかがねの花瓶

いまはそこからどんな花ばなも咲き出ていないが
すき透るその紅さは

暁の色 かすかにひらいた
唇の色

そのゆるやかなふくらみは
燃えあがる裸身のかたち

(おお　ひととはなぜ

さえぎられた明日に

烈しすぎる希望を賭けるのか

その美しい魂を

花ばなの上に散らしながら)

暁の色をにじませた赤銅あかがねの花瓶

その内側に深まる闇は

まぼろしと

破滅をはらんで――

アフリカ

アフリカは その草原の住民たちと
同じ数だけのことばをもつ

大地のことば 河のことば

驟雨のことば 太陽の熱のことば

そしてわたしのなかにも生きている

生き生きした 共同のことば

わたしの肉体の奥深くから

新しいことばが流れ出すとき

わたしの指先には 日本の暗い沼がある

わたしのまわりには 物となったわたしの死があり

血によって内部から動かされることもない

奪われた者の死体がある

わたしは物体であり そしてその怒りだ

わたしは奪われる者であり その証言だ

わたしの咽喉がひらくとき

新しい理性が語るだろう

そしてすべての物と言葉が裂け目のふちで向きあうとき